



with MORIWAKI
MORIWAKI RACING



Powered by MORIWAKI
MORIWAKI RACING

2014 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦 KYUSHU MOTORCYCLE FESTA 2014

TOHO Racing with MORIWAKI

JSB1000クラス

#104 山口 辰也 予選：4番手 (1' 48"632) 決勝：6位

TOHO Racing Powered by MORIWAKI

ST600クラス

#104 國川浩道 予選：3番手 (1' 54"063) 決勝 Race1：優勝 Race2：DNF

#16 宮嶋佳毅 予選：16番手 (1' 55"237) 決勝：Race1：12位 Race2：12位

全日本ロードレース選手権第2戦が阿蘇の麓にあるオートポリスで開催された。2週間前の開幕戦はJSB1000クラスのみとなっていたため、ST600クラスに参戦するTOHO Racing Powered by MORIWAKIにとっては、今回が開幕戦となる。さらにST600クラスは、土曜日と日曜日に決勝レースが行われるだけに、いきなり重要なラウンドとなる。

木曜日の特別スポーツ走行からスタートした今回のレースウィーク。木曜、金曜と山口は、事前テストで、ある程度セットアップができており、そこからコンディションに合わせて行く。ST600の國川と宮嶋も決勝レースを見据えたセットアップを行う。

JSB1000クラスの公式予選は、ノックアウト方式で行われ、山口はQ1で5番手につけると、10台が進出するQ2、トップ10チャレンジでは、コースレコードを上回る1分48秒632をマーク。もちろん山口にとって自己ベストとなるが、約1秒も更新する好タイムで4番手グリッドを確保した。



ST600クラスは、土曜日に公式予選とレース1が行われた。セッションが始まると、國川は、まず最初のアタックを行い1分54秒063をマーク。セッション後半にもアタックするがタイムを更新できずにいたが、それでも3番手とフロントロウに並ぶ。足回りのネガも確認でき、決勝に向けてはいい仕上がりになっていた。宮嶋は、16番手となった。

迎えたレース1。國川は、好スタートを見せ2番手で1コーナーをクリア。トップに行く大崎選手をピタリとマークする。しかし、2周目のファイナルコーナースタンド前の右高速コーナーで接触しそうになりアクセルを戻したところ2人にかわされ4番手にポジションダウン。そこから落ち着いて、1台、また1台とかわし再び2番手に浮上すると、7周目の1コーナーで大崎選手をかわしてトップに立つと、そのままレースをリード。2番手以下を引き離しトップでチェッカーフラッグを受け全日本初優勝を飾った。チームとしては、山口がチャンピオンを獲った2011年以来の勝利だ。宮嶋は、スタートで出遅れるが、徐々にポジションを回復。レース終盤にも順位を上げ12位でゴールしている。

日曜日に行われたレース2でも國川はトップ争いを繰り広げる。ただ、レース1のときに比べエンジンの伸びがなく4番手につけ最終ラップを迎える。1コーナーで前に行くライダーをかわそうとしていたが、その瞬間マシントラブルが発生し痛恨の転倒。他のライダーに接触することなく、國川自身も軽傷だったことが不幸中の幸いだった。宮嶋は、レース2も12位でチェッカーフラッグを受けた。



そしてJSB1000クラスの決勝を迎える。山口は好スタートを見せるが、1コーナーで行き場を失いポジションを下げてしまう。トップグループも離れてしまうが、そこから、この時点でのファステストラップを出し山口は追い上げていく。トップグループは、全てメーカー直系のマシンばかり。市販キット車を駆る山口の走りは脅威的でもあった。山口はトップグループに追い付き、様子を伺うが、ストレートで離され、コーナーで差を詰めることを繰り返す。それ以前に追い上げた際にタイヤに負担をかけてしまっており勝負する余力は残っていなかった。それでもヨシムラの津田、カワサキの柳川から僅差の6位でゴール。市販キット車で、ここまで走れることを証明したのだった。

JSB1000 ライダー/監督 山口 辰也 コメント

「第2戦が行われるオートポリスは、とても好きなコースであり、また、前戦の鈴鹿ラウンドからの流れですと、勝つことが出来るチャンスのある大会でした。事前テストでも、走り出してすぐにベスト近くまでタイムが出たのですが、天候の影響で1日のみのテストとなってしまいました。

レースウィークでは、KYBサスペンションの良いところを出し自分の好きなコーナーでタイムを縮めていくセットを進め、金曜日のART合同走行で0.7秒の自己ベストを更新することが出来ました。予選ではさらにセットアップが進み、2009年の自己ベストをキット車で1秒更新することが出来、4位となりました。

レースは、スタートは決まったのですが、1コーナー進入で前を塞がれてしまい、8位まで順位を落としてしまいました。しかし、そこからファステストラップを刻みながらトップグループに追いつき、ワークスチームと同じペースで走ることが出来ました。しかし、コーナーで詰めてもストレートで離されてしまう展開になってしまい、タイヤに負担がかかり終盤ペースを上げることが出来ず、6位でレースを終えました。

次戦のもてぎラウンドはストレートの多いコースですが、プライベートチームで1台でもワークスマシンを抜き、1勝を決めることが出来るように、チーム一丸となって努力していきます」

JSB1000 チーフメカニック 戸井田 剛 コメント

「事前テストが霧の影響で1日しか走行できませんでしたが、レースウィークは特別スポーツ走行もあり、セッティングを進めることが出来ました。特に、サスペンションのセットアップを順調に進めることが出来たことが良かったと思います。

予選は、4番手でしたが従来のコースレコードを更新することが出来たことも良かったと思います。

レースは、ハイペースで走行することが出来ましたが、序盤の出遅れもあり6位でレースを終えました。トップからは10秒遅れだったので、少しずつですがトップとの差を詰めていると思いますので、次戦もてぎもしっかりとテストを行い、表彰台に立てるようにしたいと思います」



ST600 ライダー 國川 浩道 コメント

「事前テストからセッティングを進めることが出来、レースウィークに臨みました。レースウィークは木曜日の特別スポーツ走行から始まりましたので、初めから精力的にセッティングを進めることに取り組みました。金曜日のART 合同走行でも、決勝レースを考えセッティングを詰めた結果、ベストタイムの大きな更新は出来ませんでした。フィーリングとアベレージタイムは良い方向にいき、土曜日の予選とレース1に向けては、良い状態で終えることが出来ました。予選では、思ったほどタイムを上げる事が出来ませんでした。フロントローとなる3位を獲得しました。レース1では、スタートも上手くいき2番手スタートが出来ました。序盤はトップの大崎選手のペースが上がっていなかったので混戦になり、一時6番手まで下がってしまいましたが、そこから1コーナーで1台ずつパッシングをし、中盤にトップをとってからは落ち着いて後ろとの差を確認しながら走行し、トップでチェッカーを受けることが出来ました。自身の初優勝でもあったので、凄く嬉しく思っています。レース2でも、1周目を2番手で終えましたが、序盤のトップ3台でのバトル中に3コーナーでミスをしてしまい、一時離されましたが、中盤から終盤にかけて常にトップグループでの走行でした。レースペースはレース1よりも速かったのですが、付いていくことが出来たので、最終ラップに仕掛けて勝負する作戦でした。しかし、最終ラップでの1コーナーでエンジントラブルにより、転倒リタイヤとなってしまいました。トラブルは仕方のないことですが、やはり悔しく思います。大きな転倒にも関わらず幸いにも大した怪我ではなかったので、気持ちを切り換えて次戦のもてぎに臨みます」

ST600 チーフメカニック 山田 寿和 コメント

「今シーズンは、KYB様のご協力を頂き、事前テストからサスペンションのセッティングを進めていくことが出来ました。また、モリワキエンジニアリング様の多大なるご協力により、開幕に向けていい状態のマシンを作り上げることが出来ました。レース1は、全体的にレースのペースが上がらなかったように思いますが、これまで進めてきたことの良い部分が全て出て、優勝することが出来ました。レース2ではトラブルによりリタイヤという残念な結果となってしまい、御協力頂いているスポンサー様、チーム、國川選手に申し訳のない思いです。次戦は、また良い結果が残せるように今回の結果を反省し取り組んでいきたいと思っております」

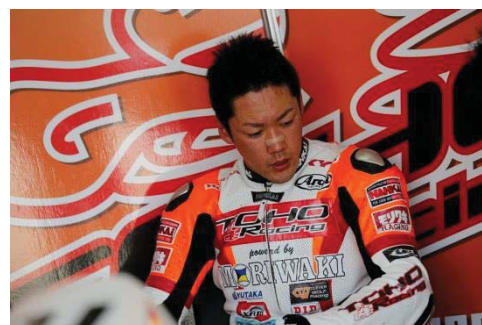


ST600 ライダー 宮嶋 佳毅 コメント

「今回の開幕戦オートポリスは、天候不良で満足にテスト出来ず、レースウィークからのマシン作りになりましたが、今年から使用させて頂いているサスペンションのKYB様をはじめ、いろいろな方々の御協力のおかげで順調に仕上げることが出来ました。決勝は2レース共に追い上げのレースになってしまいましたが、とても良いフィーリングを得られたので、次戦もてぎでしっかりと結果を出したいと思います。ありがとうございました」

ST600 チーフメカニック 田原 啓至 コメント

「サスペンションのセッティングをKYB様のご協力のもと、セットの方向性を見つけることが出来ました。しかし、まだまだ詰めるところもあるので、今よりもタイムアップして、1つでも上の順位でフィニッシュ出来るようにしていきたいと思います」



ST600 監督 福間 勇二 コメント

「まずは、ST600クラスの開幕戦から優勝することができましたことを、御協力頂いておりますスポンサーの皆様とパートナーを組ませて頂いておりますモリワキエンジニアリング様に感謝を申し上げます。

國川、宮嶋両選手とも、今回の結果をもとに、良いところ、反省すべき点などもう一度見つめなおし、上位を狙えるように精一杯努力していきたいと思います」

株式会社 TOHO

TOHO Racing with MORIWAKI

TOHO Racing Powered by MORIWAKI

担当 野口